

# かながわ異グ連ニュース

「進化する情報化社会における地域の挑戦と連携」～安心と安全のネットワークを目指して～

## “INF第5回全国大会 in えひめ・今治市” 総括

異グ連事務局長 芝 忠

- 11月14日（金）開催された「異業種グループネットワークフォーラム第5回全国大会 in えひめ・今治市」（略称、INF今治大会）はかつてない広がりを見せた大会でした。

まず1つ目は、総勢350人、22都道府県というだけでは過去の大会と同規模ですが、内容を良く見ると、①従来の参加ネットワーク（INF）岩手大学、新潟、東京北区、神奈川、愛媛、山口、宮城等のほかに新たに②異業種交流財団系統の正式参加一財団、石川、大阪、京都、大分等一がありました。また③新規参加群として、地元愛媛の様々な階層のほか、四国各県、兵庫、等京都ブラザ、神奈川の新たなグループ（水色プロジェクト）、さらに女性経営者の多さも目立ちました。④全国コーディネータ協会の全国会議も前日、現地で開催され、合流しました。⑤官（国）関連者も従来の情報政策担当部署のみではなく、他部局も参加いただきました。

2つ目に、一番重要な各ワークショップ(分科会)での議論の質が上がったと思います。回を重ねると共に、議論が発展しているということは、同じテーマの分科会が実は設定されているということに他なりません。つまり毎回新たな角度からテーマ設定するのですが、重要で関心の高い分野のテーマは、視点を変えて毎回継続されています。このようなフォーラムがその場限りのお祭りに終わらせず継続議論が必要だということです。

3つ目には、私が担当した「全国ネットワークづくり」のワークショップの内容です。参加者討論の中では肝心の全国ネットワークの議論は全くなされませんでした、「異業種交流の成果」とか「交流と事業化の接点」とか、まるで異業種交流そのものの討論会でした。一方全国ネットワークについては、スピーカの事前会議で取り敢えず「研究会」を設置することで合意しました。参加県は大分、愛媛、石川、宮城、に神奈川ですが、これに大阪、京都、新潟、東京、群馬、岩手大学、山形（米沢）、宮崎（都城）等が参加されると思います。年内目標で研究会開催計画書を作成し、年初に第一回会合を開きたいと思います。タイミング的には来年1月22日（木）に東京で（財）異業種交流財団主催による「異業種交流・融合化推進研究会（第8回）」が開催されますので、各県の異グ連・協議会のあり方の一つとして「全国ネットワーク作り」も議論していただきたいと考えています。

次回のINF第6回全国大会は、11月5日（金）石川県金沢市で開催いただく予定となっています。今年以上の多数の参加をお願いいたします。

最後に開催の労を担っていただきました愛媛県異グ連、今治市、今治商工会議所、愛媛県中小企業団体中央会ほか関係者の皆様に、誌上を借りて御礼申し上げます。

- 上記フォーラムに南出議長、芝事務局長他の皆様と共に参加しました。

異グ連事務局次長 渡辺鉄夫、スタッフ 小野川利昌

多くの興味深い話を聞くことが出来ました。紙面に限りがありますので断片的ですが、第三ワークショップの内容を中心にいくつか報告いたします。

- (1)石川県は食品加工産業と食品加工機械産業に注力している。また観光から環境へのシフト“環境が観光になる”に取り組んでいる。宮城県は企業リタイヤした人達に異業種交流ネットワークに参加してもらい、若年層（後継者）の育成に従事してもらいつつある（世代間ネットワークの構築）。愛媛県ではグループやメンバーの活動のレベルアップに地域間交流が必要と考えている。広く全国的に知恵者を探したい。大分県では新商品開発を目的にしているグループが多く、年間10数件開発しているが販売のしかけに苦労している。安く、広く、知ってもらうための全国ネットワークに期待している。山口県では神奈川との連携で“トイレーラー”を開発したが、長年の付き合いによる信頼関係がベースにあった。・・・以上はパネラーからの発言です。

- (2)ディスカッションでは会場かも興味深い意見がたくさん出ました。

・来年から補助金がなくなるが、意気消沈ではなく逆に盛り上がっている（大分）、・仲良し会であるが会員は増えている、いろんな知恵が必要で狭い世界に閉じこもってはいはどうしようもない（山口、東京）、・グループは自律的に運用するのが本来であるが、事務作業のみは行政にお願いしたい（愛媛）、・交流から開発へという段階論は間違いである（山口）、・多数メンバーの異業種交流グループは開発には不向きであり、開発は最適メンバーで実施すべき（神奈川）、・行政は傘下の企業集団を掌握するため異業種交流グループとの関係は維持

すべきである（神奈川）、・補助金は要らない、口も出される（愛媛）・・・等々

(3)懇親会の席でやや意外な意見に遭遇し驚きました。第二ワークショップ（産学官連携）のスピーカの方（らしい）から、「なぜこんなに多くの人間が集まって酒を飲みワイワイやるのか、全くムダではないか、産学連携の商品開発はこんなことをやらなくても、もっと効率的に進められる・・・云々」、の意見がありました。30数年前から産学連携が提唱されながら、進展しないという反省もあり、「旧来の企業や大学や研究機関の固い組織の枠組みにとらわれない人間的な連携の必要性が強調され」、改めて国が規制緩和も進めながら産学官公の連携に力を入れているはずなのに・・・！、交流会に名刺も持たずに参加されていました。(3)項の文責は小野川です

●INF参加者からの辛口の感想が寄せられました！！

INFin 今治に参加して感じたこと

C&S会長 八幡敬和

INF今治大会も5回を数え、テーマが多すぎるのか新鮮味が薄いのか、予定されていたパネラーが欠席していたりでピリッとしたものが感じられなかった。期待しすぎていたほうが悪いのかもしれない。しかし、しまなみ街道の向う側（広島）からの参加者はわずかで、四国他県からも10名程度と寂しかった。今治の人達は一生懸命だったのに何が問題なのだろうか。INF全体の問題として参加者が討議し合える企画とか、他県から集まれるような交流費の設定など、今後要検討事項と思う。（暴言多謝）

### 主要な神奈川方式（テーマ先行型）プロジェクト、及び研究会の状況報告

#### 第26回「中小企業政策研究会」（開催予告）

島津(俊)BC記

年末には平成16年度の予算案の閣議決定が見込まれており、中小企業政策の方向が見えてくると思われます。この機会を捕らえて、中小企業経営者、その支援者等を対象に標題の研究会を次の通り開催いたします。

ぜひ多数の参加をお待ちしています！

記

日時：H16年1月29日（木）pm6:00～8:30

会場：神奈川中小企業センター13F第二会議室

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80

TEL：045-633-5192

内容：「中小企業政策の動向」

講師：経済産業省 関東経済産業局

産業企画部 情報政策課長 明田 任功氏

#### 公的補助金プロジェクト

松井BC記

11月10日（月）18時より中小企業センターにて「補助金プロジェクト」の臨時総会を開催。芝会長挨拶の後、1. 補助金セミナーの開催と2. テクニカルショウ2004の展示に関する活動計画について運営事務局から提案説明があった。

協議の結果、補助金セミナーの開催は、県内は横浜、横須賀、川崎、県央、相模原、平塚、大和地区等、県外は東京大田区、世田谷区、品川区等において、それぞれ補助金セミナーを開催することと担当者を決めた。今後は担当者が中心になって各地区の行政や商工会議所等の関係機関と折衝し具体的な実施案を纏めて行動に移すことになった。

テクニカルショウ2004の展示は、「補助金プロジェクト」として1コマを借りて展示することになり、その展示内容、方法等について協議した。

この後、補助金セミナー用の企画書、営業用のチラシ、会員の業務実績一覧表等について作成状況報告と意見交換がなされた。

#### 都市（関内）再生プロジェクト 織方BC記

“関内コンセプト分科会”“メディアセンター関連分科会”“ビルオーナー分科会”“企画情報分科会”の4分科会は、調査研究を継続しながら、事業化の一步として空ビル等のビル開発（用途変更＝コンバージョン）の具体的提案を、適当な物件を選定の上、実施する事と、11月19日（水）の例会において決定した。なお次回は12月11日（木）に開催する予定とした。

#### 韓国（日韓ビジネス協議会）

高橋BC記

**忘年会です！**を兼ねて下記の内容で日韓ビジネス協議会を開催致します。

日時：12月10日（水）pm3:00 定例会 5:00 懇親会

場所：神奈川中小企業センター5F会議室

参加費：2,000円（超過分は協議会で補助）

内容：(1)韓国産業団地公団主催の「韓日・技術交流会」およびその他最近の報告 事務局

(2)最近の活動状況および今後の予定

韓国中小企業振興公団日本事務所 朴魯鍊所長

(3)最近の活動状況および今後の予定

(財)韓国貿易協会東京支部 朴良燮支部長

(4)韓国情報

韓国経済研究センター・主任研究員 上田 賢氏

(5)異業種交流の効果と課題に関する調査研究

神奈川県異業種グループ連絡会議 芝事務局長

\*どなたでも参加自由です。会員以外の参加者は高橋(045-311-094)まで連絡して下さい。

**\*\*PR\*\*めづらしグッズ\*\*PR\*\***

**H15年度神奈川コンソーシアム事業（新製造）採択企業が開発した“愛（アイ）キャッチカメラ”が、東急ハンズ横浜店B1フロアで販売開始されました。**

カメラ前面にELランプを配し、ペットや乳幼児の視線（アイ）を引き付け“愛”らしいショットを確実にします。可愛らしいオリジナルデザインも併せ、お土産や企業のノベルティグッズに最適です！！（小野川提供）

問合せ：TEL0467-87-7513 アパマーケッティング株式会社

**\*\*PR\*\*紹介\*\*****異グ連に新しいグループが入会されました！**

新加入：「グローバル化支援グループ横浜」の自己紹介です。

頑張りますので、宜しくお願いします。

中小企業診断協会・神奈川県支部に所属する中小企業診断士のグループで、難しい経営課題をお手伝いできるような研鑽しています。工業化社会から情報化社会へ転換し、避けて通れない次の2つのグローバル化を支援しています。

(1) ISO支援サービス (品質・環境・Pマーク (個人情報保護)・ISMSなど認証取得のお手伝い)。

(2)国際化支援サービス (セミナー・ツアー・海外進出・海外取引・海外での認証取得などのお手伝い)。

相談窓口担当：川本 TEL/FAX 045-752-3617 E-mail kawamoto@duplex-sd2.bias.ne.jp

**高機能・環境舗装等プロジェクト**

織方BC記

本プロジェクトも、ホームページを含めて数多くのメディアが取り上げ、紹介されるようになった。

11月19日(水)開催の第6回例会では、いよいよ事業化を控え、企業形態の検討・ビジネスプランの提案など、多岐にわたったが、先ず、大手道路会社との提携を模索しながら、R&D強化、販売手法、キャッシュフローを並行して、具現化していくこととなった。

**異業種交流活性化研究会**

小野川BC記

資料「用語解説：異業種交流、経営資源、交流の成果、活性化、産学連携」(鉅鹿BC提供)、「異業種交流(概念)(成果)(活性化)を考える」(島津龍男BC提供)、「異業種交流の概念図-I、II、III、IV」(小野川BC提供)を叩き台として活発な研究討議をしています。

次回も継続しますのでぜひ皆さん参加してください。

**次回は12月22日(月) a m10:00 センター5F会議室です。多数の参加を期待しています。**

**中小商店活性化研究会**

相楽AD記

早稲田商店会見学と話し合い

11月17日(月)午後1時15分に、早稲田大学大隈講堂前に集合し、早稲田商店会のエコステーション事業部長・藤村望洋氏の案内でまず、エコステーション1号館に向いました。

そして、集会場に場所を移し、藤村氏から、商店街とエコや個店販促切符や震災パックと地方連携の話をつっぷり聞きました。エコや震災など商売になりにくいものも、ビジネスモデルをつくる発想と積極性にやや圧倒されましたが、同時に見た目の活性化の他、内側からのやる気のある個店の活性化は期待できる、ヒントを得た貴重な半日となりました。

**三浦深層水事業化プロジェクト**

八幡BC記

11月の定例会に小学校児童3名が先生に引率されて特別参加した。海洋科学(光合成)について中島博士の話を神妙に聞き入っていた。その後、会員の試作した豆乳、タクワン、漬物を食し、うまみの評価をし合った。その中から一層売れ筋商品のレシピ開発がなされることになる。

**\*\*PR\*\*お知らせ\*\*PR\*\***

(^-) こころの学習 (^-)

**日常生活の中で心に疲れがでていませんか？**

**2003年12月20日(土) 18:30~20:45**

**内容：**毎年好評の「こころの学習」は、今年で4回目を迎えます。カウンセラーをお招きして、心の疲れの癒しかたを勉強します。ご一緒しませんか？

**講師：**田島 聡子 先生

NPO 法人はぐくみ心理相談所 カウンセラー

**場所：**フォーラムよこはま セミナールーム2  
(桜木町 ランドマークタワー13階)

**参加費：**500円 (前日までに要予約)

**問い合わせ：**かながわ女性起業家クラブ事務局 (竹沢)

電話 045-774-2711 FAX045-774-2759

e-mail : [chilyou@tky2.3web.ne.jp](mailto:chilyou@tky2.3web.ne.jp)

<http://www2.tky.3web.ne.jp/~chilyou/kanagawa/>

**新防食技術活用プロジェクト**

田中(繁)BC記

11月19日(水)に定例会を開催し、(株)川熱の中川芳高営業開発部長より「新飽和ポリエステル粉体塗装膜の防食性能とその応用」のテーマで講演をして頂いた。塩害、火山地帯の亜硫酸ガス、硫化水素等の酸性環境に強く、亜鉛メッキの上に400μmの塗膜を付けているが、その防食効果は大きく、最近、色々なところで使われるようになった。

横浜国立大学永井研究員(博士)からは新しい防食技術の紹介があった。今後はビジネスチャンスを拡大する目的で、市場の調査を進めることとした。次回例会は来年1月に開催します。

神奈川県中小企業家同友会の「2003神奈川県経営研究集会」に参加報告

島津俊之BC

11月17日(金)横須賀市“ヴェルクよこすか 横須賀市立勤労福祉会館”にて開催された標題の研究集会に参加しました。今回は「人づくり、仕事づくり、中小企業の発展で元気な地域を」をテーマに行われ、基調報告ののち4つの分科会にわかれて研究集会がありました。基調報告は、北海道中小企業同友会函館支部長・若山直氏(株)五島軒・代表取締役)より、道南特産の眞昆布の付加価値向上と商品化を通じての地域経済の見直しについて報告がありました。第一分科会では「この地域で生産し、この地域で消費する」をテーマに、安全・安心な食べ物、オリジナル商品の開発、町おこし等について討論し、地産地消の知域循環型経済の展望を確認しました。他の分科会は出席できませんでしたが、懇親会の席では海軍カレー、とろまん等地元の特産品がテーブルを賑わし、ネットワークの輪が広がり、多いに盛り上がった研究会でした。



## 異業種交流専門家育成講座

異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーター及び経験豊富なベテランの方に毎回登場願ひ、実績・経験に基づいた持論を展開いただきます。



しばらく難しい異業種交流・産学連携等の話が続きまして。  
年末の疲れた頭を休めるため、根岸ドクターに「環境夜話」を寄せていただきました！

秋の夜長ならぬ冬の寒い夜長を暖める暖房にも係わる

### 「温室効果ガスを取り巻く話題」

環境が話題に上るとき、環境破壊の第一位に地球環境温暖化が議論の種になる。そして温室効果ガスとして二酸化炭素、いわゆる炭酸ガスの排出がエネルギー消費との関係で論じられる。炭酸ガスが温室効果を示すことは以前から知られていた事実で、昭和初期の東北地方の大冷害の時期に「雨ニモマケズ」の詩でよく知られている宮沢賢治が“セロ弾きのゴーシュ”の中の「グスコブドリの伝記の中で火山を人工的に噴火させて大量の炭酸ガスを放出させることで冷害による飢饉から人類を救おうとする話が出ている。これは宮沢賢治が化学の教師であったことで、当然といえば当然のことで、それを当時の東北地方の悲惨な状態とダブらせて、その解決方法として示唆したものとも受け止められる。

一方、ニュージーランド政府は主要産業である牧畜で牛と羊に環境税をかけることの実現に取り組もうとしている。同国では国内産業・民生用のエネルギー源から排出される炭酸ガスの温室効果と牛と羊がゲップとして排出するメタンガスの温室効果がほぼ同等であることから、エネルギー源対策の費用捻出のためとしている。炭酸ガス排出量はメタンガス排出量と比較して桁違いに大きい、それだけメタンガスの温室効果が大きいことを示している。メタンガスはVOC（揮発性有機炭素化合物）の代表的な物質であり、都市ガスとして大量に消費されているNLGの主成分である。

自然界において炭酸ガスは植物による光合成によって炭水化物として生物圏で循環している。しかし、メタンガスは変化せずに大気中に拡散するだけである。これが温室効果ガスでの大きな違いである。その炭酸ガスもバイオマスのエネルギー化では地球規模の循環の中での存在になるが化石燃料の大量消費はこの循環系からは外れる存在である。

VOCの問題は多岐にわたる。シックハウス症の原因物質のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、ガソリンスタンドで給油されるガソリン、LPG、灯油、軽油、塗装で用いられシンナー等溶剤、都市ガスの代わりに用いられるプロパン、ライター、テーブルレンジのガスに使われるブタン、航空機燃料、その他身の回りに多くのVOCが存在する。

炭酸ガスについては排出権の取引が国際的に行われ始めている。大手O社は将来の排出権を考慮してオーストラリアに大規模な植林事業を展開しており、モンゴル政府は排出権の取引を条件に緑化事業への投資を求めている。ロシアはシベリアに広がるタイガの森林による排出権取引を実行に移そうとしている。

現代社会の継続のためにはエネルギー源の確保は必要である。しかし、温暖化が進行すれば海面の上昇は避けられない事実となる。そのため、小なりと言えども太平洋、インド洋に存在する島しょ国家そのものが水没して消滅することも避けられない。日本でも可住地域の大半は海中に没し、縄文時代にあった海進の再来の憂き目を見ることになる。

炭酸ガスは炭素と酸素との化学反応で生成することは誰でも知っているが、見方を変えてみると炭酸ガスの生成のために酸素が消費されることになる。想像だが現在の大气中の酸素が減少したら地球上の生物はどうなるだろうか。高山病みたいになって、更には酸素欠乏で消滅してしまうかもしれない。

現実と悪夢の中を彷徨っているのが現在の我々ではないだろうか。

以上

えっ！！読み終えたらよけい疲れてしまったって！！すいません。(編集子)

<編集局からのお願い>

**異グ連ニュースは会員の皆様、会員外の皆様の「イベントのPR」「新製品・新サービスのPR」「グループのPR」「企業のPR」その他諸々にも、利用いただきたいと存じます。掲載費無料です！！**

メール、FAX等でお寄せください。

編集委員：小野川利昌 [onogawa@hkg.odn.ne.jp](mailto:onogawa@hkg.odn.ne.jp) tel/fax 044-954-6254

編集委員：相楽 守 [mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp](mailto:mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp) tel/fax 03-3701-9712